



岩手

岩手の貝と漆が織りなす虹色の光
高品質の素材と確かな伝統技法
螺鈿細工の
ジュエリー装飾

螺鈿 澤井工房

螺鈿 澤井工房(岩手県盛岡市東
松園、澤井正道代表、019・
601・8646、<http://www.sawaikoubou.com/>)は、テー

ブルやタンスなどに施される
「螺鈿(らでん)」を、身近なジュ
エリー装飾に採り入れている。

螺鈿とは、アワビ貝や夜光貝
を漆地や木地などに乗せて研ぎ
出す漆工芸の技法で、世界文化
遺産の平泉中尊寺金色堂の須弥
壇や巻柱の細工でも有名である。

漆は古来より日本に馴染み深
い素材だが、国産漆の生産量7
割以上が岩手県二戸市浄法寺町
で生産されている。「浄法寺漆」
の深みのある美しい輝きと艶
は、金閣寺や日光東照宮などの
国宝や重要文化財の修復にも使
われるほど品質の高いものでは
ある。国内で消費される漆の95%
以上を外国産が占める中、同工
房のジュエリーには、下地から
「浄法寺漆」を使っている。

螺鈿には、三陸産のアワビ貝
を中心に、海外の色彩豊かな貝
を使用している。美しい桜色と
華やかで上品な輝きが特徴の三
陸産アワビ貝は、角度によって
ピンクからグリーンへと鮮やか
に表情を変え、まさに自然が生
み出した「美」の極みだ。

同工房では、厳選した素材と
確かな技術による手作業での制
作にこだわり、糸鋸を用いた繊
細な透かしや彫を特徴とし、主
に黒檀を使用した土台づくりか



艶やかで深みのある「螺鈿」の輝きが
ジュエリーを彩る



新たな作品づくりにも意欲的な澤井正道代表

ら完成まで、工房内で一貫して
制作している。

澤井代表は、1965年、埼
玉県川越市で「かんざし」職人
の修行に入り、糸鋸の目立て
に始まる技法のすべてを基礎
から学び、日本髪の笄(こうが
い)制作に携わった。1984
年に独立、2012年には岩手
県宮古市から盛岡市に工房を移
転し、現在は伝統技法を活かし
た新しい作品づくりに取組む傍
ら、後継者の育成にも力を注い
でいる。